

1. はじめに

金沢工業大学(KIT)の派遣留学生として、私は6月頭からロチェスター工科大学(RIT)に留学中しています。早くも留学してから数か月経過しており、8月最終週から秋学期が始まり、新入生や様々な国々から来た留学生でRITも活気づいています。今回のレポートでは夏季の事柄を中心に勉学、生活面の点から報告します。

2. 勉学面

6月から8月頭にかけて English Language Center(ELC)で、Intermediate レベルで9週間かけて集中的に英語学習に励みました。講義内容はいくつかに分かれており、Writing & Reading, Speaking & Listening, Language Analyze & Accuracy の3つを受講していました。Writing & Reading クラスは、主に英語のニュース記事やエッセイを要約することや同じトピックについてエッセイを書く講義でした。次に、Speaking & Listening クラスは、主にプレゼンテーション、リスニングや英会話を行い、最後に、Language Analyze & Accuracy についてですが、これは文法について学習しました。

最初のころは、聞き取りも大変でしたが、先生方の英語は大変聞き取りやすく、フィーリングによって少なからず理解できる点もあったので、講義自体についていくことは難しくありませんでした。しかしながら、言いたいことが言えない、質問するにも頭の中でどう質問するかを迷って時間がかかっていたため、英語の基礎的な力やスピーキング能力の低さを実感しました。クラスメンバーは、クウェート、サウジアラビア、中国からきた人達がいたのですが、彼らのスピーキング・リスニング能力の高さには驚かされました。

3. 生活面

ここでは、生活を通して自身が感じたことを報告したいと思います。

・コミュニケーション

アメリカという土地柄、様々な国籍、人種を受けて入れているため、英語能力がない、低い人に対して理解があるように感じました。自分の経験ですが、すぐに英語がでてこなくて脳内で言葉を探している間も待ってくれたり、多少のミスがあってもニュアンスから理解してくれたりと受け答え程度のコミュニケーションはアメリカに来てすぐでも可能だと思いました。しかしながら、実際の友人間でのコミュニケーションは大変で、自分が日本で学んだことや様々な情報の英語を知っていないと全く会話が進展しないことをこの数か月で痛感しました。とりわけネイティブとの会話はスラングなどがあちこちに使われているため、何回もどういう意味と聞き返してしまい会話のテンポが悪くなることが多々ありました。

また、RIT だけかもしれませんが、アメリカという土地は非常に障がい者に対して大変理解があると感じました。様々なところで手話を通して会話している学生がおり、サポートが厚いように思いました。

・食生活

食生活についてですが、寮によって冷蔵庫もキッチンもないので、基本的にRIT内の学食のような場所で食べることになります。基本的にピザやサンドイッチ、ハンバーガーなので、いわゆるジャンクフードが好きではない人は苦勞すると思います。とはいえ、様々な国の料理を日替わりで出す場所もあり、野菜や果物を食べることもできるので、実際そういった方でも食生活は大して問題にならないのではないかと思います。私自身はジャンクフード好きなので、毎日のようにピザかハンバーガーを食べて過ごしていますが、結構ボリュームがあっておいしいので好きな人は順応も早いと思います。加えてヴィーガンやベジタリアン向けの料理もあり、様々な人に対する配慮が見て取れました。

総じて、アメリカの人々にとって、立場的に弱者の人をサポートすることは当たり前であり、英語が母語でない私自身もその恩恵を受けていると感じています。ただ受けるだけでなく、このアメリカ留學生活を通して、様々な人にそれを返していけたらと常々感じており、今後の留學生活の目標としたいと思います。

4. 終わりに

留學が始まり 4 か月がたちましたが、自身の能力は大して向上しておらず焦りも感じます。多くの場合、相手側から日本関連で話しかけてきてもらってばかりで、様々な部分で日本人であること、日本という国から来たことの恩恵を多々感じています。今後は、英語能力だけでなく自身の知見を広げるといった点で、主体的に勇往邁進していこうと思います。